

伸ばしていく力	力を伸ばすための短期的な目標	取組例	教員自己評価
			取組状況
学びあう子を育てるために	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・児童の主体的な学習への参加や学びの成長の実感ができる授業内容の工夫	100%
		・一人一人の児童が考え学び合い、高め合える授業実践	90%
		・探究的な学びを意識した授業実践	93%
		・組織的・計画的なカリキュラムマネジメント	88%
		・質の高い読書習慣の確立	91%
		・探究的な学習場面での図書資料などの活用	88%
仲良くする子を育てるために	人権尊重の精神を基盤とし、夢や希望をもち、明るくたくましく生きていこうとする心情や態度を育てる	ICT機器の活用	88%
		・日常場面、家庭学習での活用	88%
		人権尊重の理念を理解する。	95%
		・「人のかかわり」を中心とした人権教育の実践	95%
		いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応の取組	98%
		・児童の状況把握、学年、学校での情報共有	98%
・学校いじめ防止基本方針に基づく組織的対応	100%		
・クラスの子供たち一人一人の能力の伸長を図ること	91%		
頑張る子を育てるために	たくましい心と体づくりをめざし、健康教育を推進する	特別な教育的ニーズを必要とする児童への支援を図る。	100%
		・児童の情報共有に基づく組織的対応	100%
		・SCなどの関係機関、専門家等との連携	90%
		・落ち着いた過ごせる環境づくり	98%
		グローバルに活躍できる資質・能力の育成	84%
		・グローバルな視点から物事をとらえることができる活動の工夫	84%
・国や郷土を愛し、大切にできる心情を養うための伝統文化の学習	82%		
・健康に関する正しい知識の獲得及び健康的な生活を送ろうとする態度の育成	97%		
・児童一人一人の体力、健康についての意識向上を図る	93%		
3CSの推進	一中ゾーンCSの推進(地域や保護者から信頼される学校づくり)	・学校便りやホームページ等での積極的な情報公開	91%
		・CSの推進を図る	97%
		・生活科、総合的な学習の時間、生活単元学習の充実	95%

児童アンケート	
1.授業は分かりやすいですか。	2.授業は楽しいですか。
3.知らないことを調べたり、友達と話したりしてすすんで勉強をしていますか。	4.相手の気持ちを考えて行動していますか。
5.先生とコミュニケーションをとっていますか。	6.学校は楽しいですか。
7.自分からあいさつをしていますか。	8.すすんで運動をしていますか。
9.栄養のバランスを考えてよく食べ、睡眠をしっかりとしていますか。	10.学校は、相談したことに対して丁寧に対応している。
11.学校は、保護者や地域の方に対して情報発信している(学校公開含む)。	12.学校は、教育活動に地域人材を積極的に活用している。
13.学校は、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の取組を進めていることを知っている。	14.狛江市が、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の取組を進めていることを知っている。
15.緑野小学校、狛江第一中学校とともに『一中ゾーン』の学校としてのコミュニティスクールであることを知っている。	

保護者アンケート	
1.お子様は、授業がわかりやすく楽しいと感じている。	2.お子様は、各教科の基礎的・基本的な事柄が身に付いている。
3.お子様は、英語学習に楽しく取り組んでいる。(本項目の回答は小学校3年生以上)	4.学校は、児童・生徒の実態に合わせて、個に応じた指導を展開している。
5.お子様は、ICT機器を学習で活用する力が身に付いている。	6.お子様は、自分・他者ともに大切にしようとする姿勢が身に付いている。
7.お子様は、楽しく学校生活を送れている。	8.お子様は、あいさつの習慣が身に付いている。
9.お子様は、運動やスポーツ(遊びや部活動を含む)にすすんで取り組む姿勢が身に付いている。	10.お子様は、栄養、睡眠など自分の健康を意識することができている。
11.学校は、相談したことに対して丁寧に対応している。	12.学校は、保護者や地域の方に対して情報発信している(学校公開含む)。
13.学校は、教育活動に地域人材を積極的に活用している。	14.狛江市が、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の取組を進めていることを知っている。
15.緑野小学校、狛江第一中学校とともに『一中ゾーン』の学校としてのコミュニティスクールであることを知っている。	

**【考察】**  
◇は改善策

○児童の9割以上、保護者の8割以上が、授業が分かりやすく楽しい(分かりやすく楽しいと感じている)と回答している。保護者の回答に関しては、昨年度よりも1割ほど肯定的な評価が増えている。これは、児童の思いを大切にしながら授業展開、体験的な活動を多く取り入れていることが一定の効果が上がっていると思われる。

◇保護者の回答で、英語学習、個に応じた指導展開、ICT機器活用能力についての肯定的な評価が7~8割となっている。取り組み状況の周知が十分でないことも理由の一つとして考えられる。周知方法について工夫していく必要がある。

○児童、保護者共に9割以上が学校が楽しい(子供は学校を楽しんでいる)と回答している。保護者の回答については、昨年度よりも1割程度肯定的な評価が増えている。○相手の気持ちを考えること、自他ともに大切にしようとする姿勢については、児童、保護者共に9割以上が肯定的な評価をしている。授業において対話を取り入れたり、特別活動において話し合いをしたりすることが定着し、これまで以上に人との関わりが増え、相手を大切にできる気持ちが増えていると思われる。

◇挨拶や、教員と児童のコミュニケーションに関する項目で、肯定的な評価が9割に満たない結果となっている。挨拶に関する日々の指導を引き続き行うとともに、教員と児童とのコミュニケーションをさらに図っていくように日頃からの声掛けを増やしていく必要がある。

◇すすんで運動をしているかについての回答では、児童の8割以上が肯定的な評価をしているが、昨年度よりも1割程度減っている。持久走記録会や運動集会などの全校で取り組める体育的行事の実施や、外遊びへの声掛けを一層強化していく必要がある。

◇運動と栄養、睡眠など健康に関する質問については、児童の回答と保護者の回答に差がある。学校、子供、家庭が一体となった保健教育の推進が必要である。

○「教育活動に関する情報発信を積極的に行っている」「学校は相談したことに対して丁寧に対応している」については、どちらも9割以上が肯定的な評価をしており、昨年度よりも1~2割程度増えている。学校便りやホームページでの情報発信、個人面談や学校公開の実施などが一定の効果を上げていると思われる。

◇コミュニティスクールの取組については「知らない」と回答している割合が約4割から6割となっている。未だ低い評価ではあるが、昨年度と比較するとそれぞれ2割~3割程度評価が上がっている。引き続き、学校便りやホームページで発信し、活動の内容を広く伝えていく必要がある。